

## 写真部門・一枚写真の部

### 最優秀賞

### 北広島町 『広報きたひろしま』（令和3年1月号）



■担当課：総務課

■連絡先：050-5812-1850

#### 【担当者より(掲載意図)】

2021年は丑年であるということで、飾り牛がモチーフである当町のイメージキャラクター「花田舞太郎」と新年らしい日の出を撮影することにしました。

よく冷え込んだ早朝 5:45、商工観光課・観光協会職員と3人で、霧の海が出る龍頭山に登りました。日の出と舞太郎を並べて撮影すると、シルエットの状態になってしまうため、舞太郎の瞳に日の出の山際を入れるアングルで撮影しました。無機質な瞳に光が入り、舞太郎の希望に満ちた新年にふさわしい表情が撮影できたと思います。また、シアンフィルタを入れたことで、朝の静かさ・清らかさを伝えることができたと思います。

暗いニュースの多かった2020年。2021年は町民の皆さんに新しい希望をもって元気に活躍してほしいと思いながら撮影した一枚です。

#### ＝講評＝

- この写真を撮影するためだけに行動したあたりが、担当者のこの写真を撮りたいと言う意気込みが感じられる一枚。ちゃんとキャラクターの瞳に写し出すことも評価に値する。
- 自分の町の主役を2021年の主役を立て、山に登って撮影した様子がうかがえる、すがすがしい一枚。
- 完成イメージが出来ている点が素晴らしく、ちゃんとフィルターを使い日の出の赤さを強調したのはすごく良い。

### 優秀賞

### 呉市 『市政だよりくれ』（令和2年7月号）

■担当課：秘書広報課

■連絡先：0823-25-3236



#### 【担当者より(掲載意図)】

豪雨災害・人口減・コロナ…。多くの課題で閉塞感漂う町と市民に元気と勇気を与えることを主眼に置きました。豪雨災害からもうすぐ2年。月日の経過やコロナ禍の影響で防災意識の低下が懸念されますが、いつ起こってもおかしくない自然災害。これからの梅雨時期にあわせ、できる限りの対策や準備をする大切さを訴え「いのちを守る」ための防災特集を組みました。また同時期に呉市消防局で大規模災害に対応する「高度救助隊」が発足。取材時、若き隊員の勇ましさややる気に満ちた表情に私自身元気をもらいました。市民の皆さんにも勇気と安心を感じてもらいたい。そんな思いで高度救助隊の訓練中に撮影した1枚を表紙として採用しました。

撮影は、ロープを使い壁面を駆け上がる勢いあふれる訓練を真上から！落下防止のため、私自身も後ろからロープで固定されながら、カメラを落とさないように…緊張感たっぷりな「いのちとカメラを守り抜く」撮影となりました。

#### ＝講評＝

- 撮影者自ら、身体を張った撮影をしているだけあって、ただ真上からとはかなり違う迫力は評価出来る。
- 迫力のあるアングル。メインの隊員と、下でサポートするサブの隊員とのコントラストもよく伝わってくる。

# 写真部門・組み写真の部

## 最優秀賞

### 大竹市 『広報おおたけ』（令和2年 11月号）

■担当課：企画財政課 ■連絡先：0827-59-2125



#### 【担当者より(掲載意図)】

新型コロナウイルス感染症のため、多くのイベントが中止になりました。毎月第3土曜日に開催していた「おおたけ GOGO 水産市」も3月から中止となっていました。緊急事態宣言解除後の7月に再開にこぎ着けましたが、これまで出店していた特産品コーナーやバンド演奏はない、規模を縮小したものでした。ようやく9月になり、コロナ対策を講じて本格的に再開。落ち込みがちな世情の中、再開をまちわびていた来場者とともに元気な生産者、販売者たちや裏方の様子を伝えたいと掲載しました。また、11月に大竹のフルーツ魚「あたたハマチ to レモン」の初入荷などを予定しているため、それに向けての告知の意味も含めての掲載です。

#### ＝講 評＝

- 水産市において、いろいろなシーンでの写真を掲載することで「行ってみよう」という気にさせる。楽しさが伝わる。
- 再開されたイベントの賑わいが一目でわかるし、迫力ある写真の撮り方も加わりストーリーが見える表現となっていた。
- 強調したい写真は広角レンズで迫力あるように撮影し、説明的な写真は絞りもちゃんと絞って細部まで見せることができている、ちゃんと撮影をしていることが伝わった。

## 優秀賞

### 廿日市市 『広報はつかいち』（令和2年 12月号）

■担当課：経営政策課 ■連絡先：0829-30-9121



#### 【担当者より(掲載意図)】

廿日市市に隣接する広島市佐伯区出身で、世界陸上銅メダリストの為末大さんによる陸上教室が開催されました。地元縁のある憧れの選手から走り方を学ぼうと、100人を超える参加者が集まりました。今回のイベントは親子での参加が多く、コロナ禍でさまざまなスポーツイベントが中止となる中、秋空のもとで伸び伸びと走る子供たちの動きや、為末さんから教わり早速実践する真剣な表情、溢れる笑顔、そして親子のふれあいを撮影しました。子供たちがスポーツ楽しさを肌で感じ、また夢を持つことの大切さを学んだ1日が伝わるよう編集しました。

#### ＝講 評＝

- 地元出身メダリストを交えた交流イベントの様子を伝えることは広報紙として趣旨にかなっており、特に子供たちの楽しそうな様子を写している点が評価できる。
- スタートの瞬間、後ろ足の形などそれぞれが伝わる瞬間を逃さず撮っている。
- 適切な場所に写真もレイアウトされ、キャッチコピーを含む文字も適切でレイアウトとしての完成度は高いと感じる。